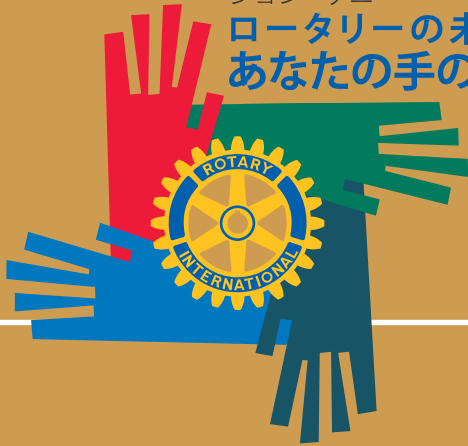


2009～2010年度 国際ロータリーのテーマ
ジョン・ケニー

ロータリーの未来は
あなたの手の中に



会長／対馬健一 幹事／中出敏彦

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2009▶2010 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

親睦でクラブの活力と結束を、 そして奉仕は足もとから

プログラム

- 本日
年忘れ家族会
結婚記念日
12月12日 山本 譲二
- 次週予定
バツツ例会

No. 2399

第22回 12月9日

出席報告

前例会

会員総数	43名
出免会員	4名
出免出席	2名
出席会員	30名
出席率	73.17%

前々会

第19回 11月18日

出席会員	36名
メイクアップ	0名
修正出席率	82.93%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

会長報告

- 昨日第6回定例理事会を開催し、①12月例会プログラム、②11月末収支報告、③1月定例理事会日程変更(12月28日)、④会員増強等について承認いたしました。
- 西谷英樹会員が旭川において新事業所を開設されましたので、クラブよりお祝いを差し上げます。

3) 妹背牛RCより例会変更の案内を受領、12月8日クリスマス例会のため夜間例会、場所はプラザ板倉。

会報受領先

- ・深川RC No.2468号～No.2470号
- ・芦別RC No.2520号～No.2523号
- ・妹背牛RC 今年度No.17号～19号
- ・羽幌RC No.1472号～No.1476号

幹事報告

- 1) 2010年モントリオール国際大会の参加旅行の案内が届いております。参加希望者は幹事までお願いします。
- 2) 深川RCより例会変更の案内を受領、12月15日クリスマス例会のため、夜間例会。

ゲスト

元全日本スキー連盟 女子ジャンプ
ナショナルチームA指定 山田いずみ様

委員会報告

国際奉仕委員会 大嶋委員長

皆様にご協力していただいた、財団並びに米山を11月30日に幹事を通して送金致しました。ロータリー財団が279,000円、米山が163,000円です。ありがとうございました。

例会運営委員会 西谷(英)委員長

12月例会にて時間変更がございます。次週12月9日はクリスマス例会にて午後6時点鐘となります。お間違えのないようにお願いします。

親睦活動委員会 渡邊副委員長

次週は楽しいクリスマス例会です。例会運営委員長さんが発表したように、点鐘は午後6時です。遅れる事のないようにお願いします。当日は豪華景品を取り揃えてお待ちしております。

I M実行委員会 森(俊)総務委員長

12月16日の例会終了後に来年4月11日開催予定の第1グループI Mの打ち合わせを開催したいと思います。役員・委員長さんにはよろしくお願いします。時間は約20分位の予定です。

3分間情報

会員研修委員会 佐藤(潔)委員

「ロータリアンを結ぶロータリーの雑誌」

クラブの各会員が、R Iの機関誌またはR I理事会が承認し、当該クラブに対して指定したロータリーの雑誌の有料購読者とならなければならない。本人が会員になっている限り、その購読を続けなければならない。

なぜロータリーの雑誌を読まなければならないのか、それはたぶん各会員があまり目を通す事のない「標準ロータリークラブ定款」第13条1節に購読義務の規定があるからです。会員身分を保持する限り、R Iの機関誌またはR I理事会から承認されたロータリー雑誌を購読しなければならないとあります。

幅広い奉仕活動をするために、自分の所属するクラブばかりでなく、自分のクラブのある地区や国、世界中のクラブの活動やロータリアンのことを知らなければなりません。世界の多くのロータリアンに会い、色々な活動を見るのが一番良いのですが、それは簡単に出来ません。ロータリーの雑誌を通して、幅広く情報を入手し、それを実際の活動に生かすためなのです。

ロータリーの雑誌の始まりは、機関誌である「THE ROTARIAN」です。この雑誌は1911年に「The National Rotarian」という名前で創刊され、その後、1912年米国ミネソタ州で開催された第3回国際大会で「THE ROTARIAN」と改称され今日に至っています。

日本ロータリーの公式地域雑誌である「ロータリーの友」は1953年1月に創刊し、その前年1952年7月から日本の地区が2つに分割されたのをきっかけとして誕生したものです。「ロータリーの友」がロータリーの公式地域雑誌に指定されたのは、1980年7月です。それ以前、日本の会員は購読義務を果たすために「THE ROTARIAN」を購読していました。自分たちの地域の雑誌がロータリーの公式地域雑誌に指定されると、母国語で書かれた雑誌を購読すれば良いという事になります。しかし、指定された地域雑誌は国際ロータリーの雑誌に関する、いろいろな規定を守る義務が出てきます。主なものは「THE ROTARIAN」から、毎月指定された記事を掲載しなければなりません。タイトルの上に「R I 指定記事」と記してあるのが、掲載義務のある記事です。「友」は創刊当初は、すべて横書きでした。その後、俳壇・歌壇といった横書きでは都合の悪い欄も出てきて、縦書きの頁も混ざるようになり、現在のように縦書きと横書きがはっきり分かれたのは、1972年1月号からです。

原則的に横書きはR Iの方針や地区・クラブの活動等の紹介など、いわばロータリーの公式の活動を紹介し、縦書きは会員のコミュニケーションの場、基礎知識を広めてもらう場として会員からの投稿を中心に掲載しています。

ロータリアンの皆様がロータリーの雑誌を読

むのは、豊かな情報を基に幅広いロータリー活動をするためです。

「ロータリーの友」という名称は、岐阜クラブの遠藤健三氏の提案で決定しました。その後の談話でこの名称は「主婦の友」からヒントを得たそうです。

ニコニコBOX

- ちょっと良い事がありました 対馬会長
- そらぶちキッズキャンプを支援するそらぶちBOX500個完売しました ご協力ありがとうございます 田中ガバナー補佐
- 昨日旭川市で介護付き有料老人ホーム七福神弁天館がオープンしました 西谷(英)会員
- ちょっと良い事がありました 関野会員
- ちょっと良い事がありました 武井会員

前 回	486,000円
今 回	42,000円
累 計	528,000円

プログラム

「来賓卓話」 =質問形式=

元ノルディックスキー

女子ジャンプ選手 山田いずみ 様

問) ジャンプのきっかけは？

私がジャンプに出会ったのは私が小学校に上がる前の幼稚園の頃で、近所にジャンプ少年団に入っている友達がいる、ジャンプ台に遊びにおいでよという形で誘われたのがきっかけで、それまでスキージャンプというものをまったく知りませんでした。

初めてジャンプ台に行き、大きいお兄さん達のジャンプを見て、カッコ良く私もこのジャンプという競技をやりたいと思ったのがキッカケです。

問) 競技生活の思い出について。

私が今まで生きてきた31年間で、その内競技人生は25年間という、ほとんどの時間でしたの

で思い出はたくさんあります。

第一人者といわれますが、初めは女子の種目さえ無い状況からのスタートで、何を目標にして良いのか、何を夢にしていけば良いのかわからない所から始まりました。ジャンプを楽しむにつれて出来た夢、私の最初の夢というのが、「大倉山ジャンプ台を飛びたい」日本一高いジャンプ台を飛びたいという夢が初めて出来て、そこからは本当にその夢に向かって毎日の目標をクリアする日々が続いて、その夢が高校3年生の時に達成したという事と、その次の夢が世界一に立ちたいという夢だったのですが、夢を持つ事によって日々トレーニングを頑張る事が出来て、私にとってスキージャンプイコール目標、夢の繰り返しでした。

スキージャンプを通して私は、目標を持つ事の大切さだったり、夢を持つ事の大切さをすごく学ぶ事が出来ました。これから色々あると思いますが、小さな子供達にその夢の大切さを伝えていきたいと思います。

問) 留萌出身で、神戸クリニックの女子スキージャンプの監督である渡瀬弥太郎さんについて。続いてスーパー中学生・伊藤有希ちゃん、知ってる方もいると思いますが、有希ちゃんのお爺さんは元留萌ロータリアンの北嶋製粉さんです。またチームメイトの渡瀬あゆみさんについて少しお話をください。

渡瀬監督は留萌出身ですので皆様よくご存知の事と思いますが、私が出会ったのは、私が今のチームに入る前の前チームの時で、もちろん知ってはいましたが、前チームに入るのを決めて下さったのが渡瀬監督で、現在神戸クリニッ



クでスキー部の監督として所属しております。私とは切っても切れない仲で、女子ジャンプ界に渡瀬監督ありという方です。その方が留萌出身だったという事と、その娘さんも全日本の女子ジャンプのエースで神戸クリニック所属の選手として活躍されています。先ほどの話にあった伊藤有希ちゃんのお母さんも留萌出身という事もある、本当に留萌に縁があるなという事で、今回この様な機会をいただき、例会に出席させていただきました。大変感謝いたしております。

留萌出身という訳ではありませんが、渡瀬選手にしろ伊藤有希選手にしろ、女子ジャンプ界に2人も留萌にご縁のある選手が居りますので、皆さんも渡瀬選手、伊藤選手を通して女子ジャンプをぜひ応援していただければと思います。

問) 現在現役を引退し、講演や一日警察署長などを体験され、女子ジャンプの普及などに力を注いでいられますが、今後にかける思いをお聞かせ下さい。

現役時代には私の夢は世界一という夢でありましたが、引退してからは女子ジャンプの事を考えるようになりました。引退後にはまた私の夢が出来ました。それは女子ジャンプがオリンピックの正式種目になる事です。

しかし私の出来る事と言えばあまり無く、オリンピックといえばJOC、またその上の組織で決めていく事ですので、私に何が出来るかと考えた時に、まずは女子ジャンプはマイナーというイメージがありますので、一人でも多くの方に女子ジャンプを知っていただくの思いで作ったのが、今皆様の前にある「美翔女」という冊子です。多くの方のご協力を得て、留萌の方のご協力も頂いて、手弁当で作りました。少しでも多くの方に知っていただくと共に、オリンピック種目になるには競技人口の問題があり、ここ10年くらいで国内においても、最初は私一人から始まり現在では小さい子も合わせて50人以上になりましたが、それでもまだ少ないという事で、私がこういう活動をする事により、小さい子供達にスキージャンプの楽しさを知っ

てもらいたいという思いがあります。出来れば色々な地区でスキージャンプ大会というものをご体感していただいて、遊びの延長線上にスキージャンプがあったらと思います。

先ほど聞いた話では、留萌のスキー場が無くなってしまったと聞きましたが、例えばそういう所で雪が降ったら手作りのジャンプ台を作り、小さな子供に体験してもらうなど、そういう活動が出来たらなと思っておりますので、皆様のご協力をお願いします。

最後に神戸クリニック所属ですが、何か美容整形の病院のように聞こえますが、眼科でございます。今話題のレーシック(視力矯正手術)の病院でございます。めがね・コンタクトにかわる第3の視力矯正方法です。レーザーを使い、手術の痛みもございません。手術時間も両眼で10分前後で入院も不要です。ぜひご家族、ご親戚の方で視力にお悩みの方がいましたらご紹介いたします。本日はありがとうございます。